

《担当者名》 幸村 近 赤坂和美（非）

【概要】

臨床病態学ではさまざまな疾患の病態を学び、臨床症状と臨床検査を通じて診断に至る過程を臓器系統別に理解する。さらに治療方針決定や治療後の経過と臨床検査の関わりについても詳しく学ぶ。

臨床病態学Iでは、臨床検査の意義や臨床上の意思決定における検査情報の活用法について学ぶ。ついで循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血栓止血領域などについて主要疾患の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を理解する。

【学修目標】

- 1) さまざまな疾患の病態を学び、臨床症状と臨床検査を通じて診断に至る過程を臓器系統別に理解する。
- 2) 治療方針決定や治療後の経過と臨床検査の関わりについて理解する。
- 3) 臨床検査の意義や臨床上の意思決定における検査情報の活用法について説明できる。
- 4) 主要な循環器疾患について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 5) 主要な呼吸器疾患について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 6) 主要な消化器疾患について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 7) 血栓止血領域における主要疾患の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	臨床病態学総論	・臨床医学総論 ・臨床検査の意義や臨床上の意思決定における検査情報の活用法 教科書 第1章、資料配布	幸村 近
2	臨床検査医学総論	・基準範囲・カットオフ値 ・臨床検査性能評価 ・臨床判断値、ガイドライン 教科書 第19章	幸村 近
3	循環器疾患 1	・心不全 ・血圧異常 教科書 第2章	幸村 近
4	循環器疾患 2	・不整脈 ・先天性心疾患 ・心臓弁膜症 教科書 第2章	幸村 近
5	循環器疾患 3	・虚血性心疾患 ・心筋疾患 教科書 第2章	幸村 近
6	循環器疾患 4	・その他の心臓血管疾患 教科書 第2章	幸村 近
7	循環器疾患 5	・超音波検査が診断に有用な心血管疾患 教科書 第2章	赤坂和美
8	呼吸器疾患 1	・感染性肺疾患 ・免疫学的機序が関与する肺疾患 教科書 第3章	幸村 近
9	呼吸器疾患 2	・閉塞性肺疾患 ・拘束性肺疾患 ・肺循環障害 ・胸膜疾患 教科書 第3章	幸村 近
10	呼吸器疾患 3	・肺がん・悪性腫瘍 ・その他の呼吸器疾患、肺疾患 教科書 第3章	幸村 近

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11	消化器疾患 1	消化管疾患（炎症性疾患、消化性潰瘍、イレウス、機能性消化管障害） 教科書 第4章	幸村 近
12	消化器疾患 2	・消化管疾患（悪性腫瘍） ・肝疾患（肝炎、肝がん、肝硬変） 教科書 第4章、第5章	幸村 近
13	消化器疾患 3	肝疾患（脂肪肝など）、胆道疾患、膵疾患 教科書 第5章	幸村 近
14	血栓止血領域 1	・止血、血栓形成の機序 ・血栓止血領域の検査 教科書 第7章	幸村 近
15	血栓止血領域 2	・出血性疾患 ・血栓性疾患 教科書 第7章	幸村 近

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 80% 小テスト・レポート 20%

【教科書】

奈良信雄・高木康・和田隆志 編著 「最新臨床検査学講座 病態学 / 臨床検査医学総論 第2版」 医歯薬出版株式会社 2021年

指定の教科書に加え、必要に応じて学習プリントを配布する。

【参考書】

河合忠 監修、山田俊幸・本田孝行 編集 「異常値の出るメカニズム（第7版）」 医学書院 2018年

矢富裕・横田浩充監修、小山高敏・戸塚実 編集 「標準臨床検査学 シリーズ 臨床医学総論（臨床医学総論，放射性同位元素検査技術学，医用工学概論，情報科学・医療情報学，公衆衛生学）」 医学書院 2013年

矢富裕・横田浩充監修、矢富裕 編集 「標準臨床検査学 シリーズ 臨床検査医学総論」 医学書院 2012年

佐藤良暢 監修、勝田逸郎・松本禎之 編集 「臨床病態学（改訂第5版）」 南江堂 2020年

高木康・山田俊幸 編集 「標準臨床検査医学 第4版」 医学書院 2013年

本田 孝行 著 「検査値を読むトレーニング ルーチン検査でここまでわかる」 医学書院 2019年

矢崎義雄 監修 「新臨床内科学 [デスク判] 第10版」 医学書院 2020年

矢崎義雄・小室 一成 総編集 「内科学（第12版）」 朝倉書店 2022年

【備考】

講義の開講順は、変更する場合がある。変更内容や講義日程は、ガイダンス時または掲示等にて発表する。

一部クリッカーを使用した双方向型授業を行う。

一部クリッカーを活用し、授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

一部Google Formを利用して学習課題を提示する。

【学修の準備】

各回の授業内容および学習課題について、教科書の該当ページを事前に読んでおくこと（80分）

復習は、教科書や配布資料を活用し、学習を深めること（80分）

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP1）生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【実務経験】

幸村 近（医師）、赤坂和美（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、臨床病態の理解・把握における臨床検査の意義、重要性、その他具体的な実践について講義する。